

第103回 東葛しぜん観察会

こんぶくろ池自然博物公園の自然めぐり

日野原純子（柏市）

日 時：2014年6月1日（日）10時～12時30分

場 所：こんぶくろ池自然博物公園（柏市）

参加者：31名（うち子ども4名）、指導員23名+協議会1名

担当指導員：日野原、大貫、山下、市川

こんぶくろ池、弁天池は地金掘り・大堀川を経て手賀沼に流れ込んでいます。湿地には冷温帯に生育するズミがあり、千葉県レッドデータブックBランクのコムラサキ、ヌマガヤやCランクのノリウツギ等貴重な植物が自生しています。湧水や湿地の保全についての調査・研究・整備を柏市、市民ボランティアNPO、千葉大学、東京大学、企業等の協働で行っています。

前日からの暑さの為欠席した方もおり、実施に際しては参加者の体調が心配でしたが、具合を悪くする人は無く、無事に観察会は終わりました。今回は最初2組の親子参加があつた為、大人班と子ども班を作りました。その後、子ども班は4組に増えました。大人班は食物連鎖のピラミッドを中心に植物と虫などのつながりを。子ども班は、遊びを交え自由に観察をしました。

観察した主なものは、クリタマバチの虫こぶ、ゴマダラチョウ、アカボシゴマダラ、マイマイガの幼虫、サラサヤンマ、オトシブミ、植物ではマムシグサ、ズミの実、ウワズミザクラとオオシマザクラの実の違い、ミズキの枝ぶり、クサギの葉のにおい、ゴマギの葉のにおい、コバギボウシやノジトラノオの葉、ヌマガヤ、クワの実の試食等。

参加者からは、こんぶくろ池自然博物公園の整備・保全をしているNPO団体への感謝や自然を守りつつ触れられる場になると良いなと思った。車道からちょっと入っただけで別世界のような森が広がっていて面白かった。前から行ってみたかった こんぶくろ池を見ることができ良かった。等々、こんぶくろ池に関する感想が多数寄せられました。

自然観察では、写真や図鑑を使っての説明が分かりやすかったと好評でした。他に色々な虫が見られて良かった。湿地特有の植物が見られた良かった。森の中は過ごし易く色々勉強になりました。豊かな自然に癒されました。たくさんの種類の草木が生えているのを実感、昆虫のためにもこれらの草木を守っていく必要があるのだと思いました。あつという間に時間が過ぎてしまいました。クワの実を初めて食べました。観察しながらなので、ゆっくりと歩いた為疲れたという感想もありました。時期が春咲きの花と夏咲きの花の間だったので、違う季節にも来ようと思いました。等の感想がありました。今回の参加者に2組の親子連れがあつた為、子ども班を作り、遊びを交えながら自由に観察しました。

子どもの感想では、白くて大きいチョウトンボなど色々な虫が見つけられて良かった。タンポポ笛がむずかしかった。

昼食・反省会の後、指導員の希望者で掩体壕（戦時中敵から飛行機を守るために作られた格納場所、ここでは土濠で周囲を囲つただけのもの）に行き、千葉県レッドデータブックBランクのクロツバラとクロウメモドキを見に行きました。



サラサヤンマの説明